

保守・清掃 受注を拡大

高級ホテル大理石

ビルや店舗の保守・管理を手掛ける新日本ビルサービス（さいたま市、関根一成社長）は高級ホテルからの保守・清掃の受注を拡大する。大理石の光沢を保つ独特の技術を生かし、2年後に受注額を5倍にすることを目指す。都内の主要ホテルの稼働率は高水準で収益が改善しており、東京五輪を前にサービスの質を向上させる機運が高まっている。同社は事業拡大の好機と判断した。

新日本ビルサービス

高級ホテルではロビーや共用トイレ、客室の水回りなど多くの場所に大理石を使っている。新品同様の輝きを維持するためには特殊なメンテナンス技術が必要となる。汚れやすい水回りの大

光沢保つ技術生かす

大理石は通常、表面を膜で覆う方法を採用している。同社はこれに加えて、ロビーや玄関の床や壁の大理石向けに、研磨して鏡面化したうえで石材に含まれる成分を結晶化させて光沢を維持する技術を持つ。

同社では10年ほど前に都内のホテルからロビーなどの清掃を請け負ったことをきっかけに、光沢を保つノウハウを蓄積してきた。このほど一部の外資系高級ホテルで信用が得られたことから、受注拡大に向けて営業を強化することにした。

2015年4月期は大理石の保守などで延べ約20棟のホテルから3000万円を受注した。このうち7棟は一時的な研磨だけでなく、年間を通じて常に光沢を維持できる

大理石のメンテナンスではまず、専用の機器で細かい傷を補修する（東京都千代田区内のホテル）



ような保守契約を結んでいる。この受注額を17年4月期には1億5千万円にする計画だ。年間契約の比率を高めるのに加えて、首都圏の外資系ホテルを中心に新規受注先を開拓する。

に、いったん契約した取引先との受注内容の拡大にも力を入れる。例えば、損傷した大理石の修復や便器のコーティング、大型のシャンデリアの定期清掃、光触媒を使って客室を消臭し喫煙室から禁煙室に転換するといった

受注を始めている。今後さらに周辺メニューを充実させ、収益を増やす考えだ。都内のホテルは訪日客の増加で客室稼働率が80%台半ばという高い水準で推移している。旺盛な需要を背景に客室料金の

上昇傾向が続いておりホテルの収益性は上向いている。一方で20年の東京五輪を前に、施設の豪華さや清潔感を重視する傾向が強まっているという。ホテルの保守・清掃需要は伸びる可能性がある。